

第 65 回「山形県内企業の景気動向調査」 確報

(令和 2 年 11 月調査)

～景況感は 6 期ぶりに改善ながら、
先行きへの慎重姿勢続く～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 DI 値（前年同期比）」が▲49.8（前回調査比 5.7 ポイント上昇）と **6 期ぶりに改善**したものの、依然として低水準で推移している。「各種 DI 値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」は 7 期ぶりの改善、「資金繰り」は 2 期連続の改善となった。「人員・人手」は 4 期ぶりに上昇し、DI 値がプラスに転じた。
- **業種別**に「自社の業況 DI 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲21.3（前回調査比 4.8 ポイント上昇）、製造業が▲60.3（前回調査比 3.5 ポイント上昇）、卸・小売業が▲55.4（前回調査比 9.6 ポイント上昇）、サービス業が▲58.7（前回調査比 4.0 ポイント上昇）と、**すべての業種で改善**となったものの、建設業を除く 3 業種で低水準での推移が続いている。
- **地域別**に「自社の業況 DI 値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲46.9（前回調査比 6.7 ポイント上昇）、村山北部が▲59.2（前回調査比 2.4 ポイント上昇）、最上が▲41.8（前回調査比 14.0 ポイント上昇）、置賜が▲67.3（前回調査比 4.9 ポイント上昇）、庄内田川が▲32.5（前回調査比 15.1 ポイント上昇）、庄内飽海が▲56.8（前回調査比 6.8 ポイント下落）と、**庄内飽海で悪化**したものの、**その他の 5 地域で改善**となった。
- **先行き見通し**は「自社の業況 DI 値（前年同期比）」が▲28.7（今回調査比 21.1 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。前回調査から一部持ち直しの動きはみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響による先行きの不透明感は強く、引き続き慎重な姿勢がみられる。

【特別調査】

- **冬季ボーナス**について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 56.1%（前年比 3.6 ポイント低下）と、2 年連続で低下となった。

令和 2 年 12 月

株式会社 フィデア情報総研

目次

I.	県内企業の業況	1
1.	概況	1
2.	業種別の動向	2
(1)	業種別の概況	2
(2)	業種別 D I 値の動向	3
①	建設業	3
②	製造業	5
③	卸・小売業	7
④	サービス業	9
3.	地域別の動向	11
(1)	地域別の概況	11
(2)	地域別 D I 値の動向	12
①	村山南部	12
②	村山北部	13
③	最 上	14
④	置 賜	15
⑤	庄内田川	16
⑥	庄内飽海	17
II.	景気の天気予報図	18
III.	特別調査	19
1.	冬季ボーナスについて	19
(1)	支給予定動向	19
(2)	支給予定額	21
	<参考資料 I : 地域別・業種別回答率>	23
	<参考資料 II : 調査の概要>	23

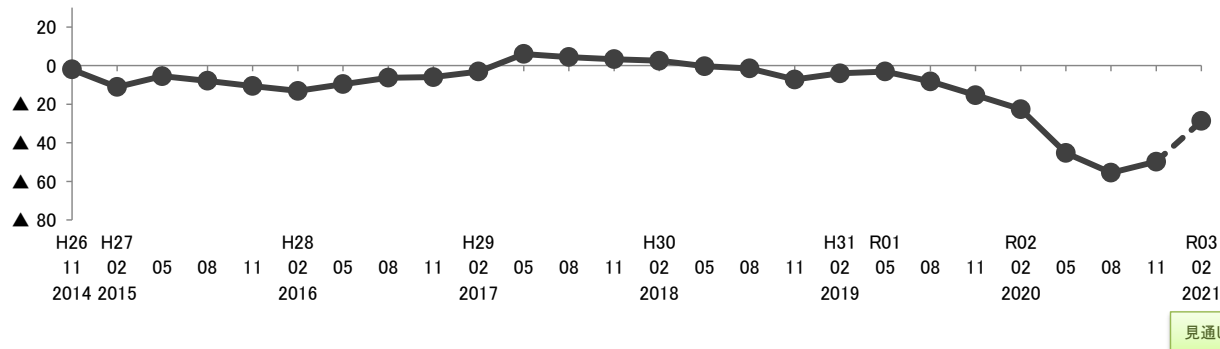
I. 県内企業の業況

1. 概況

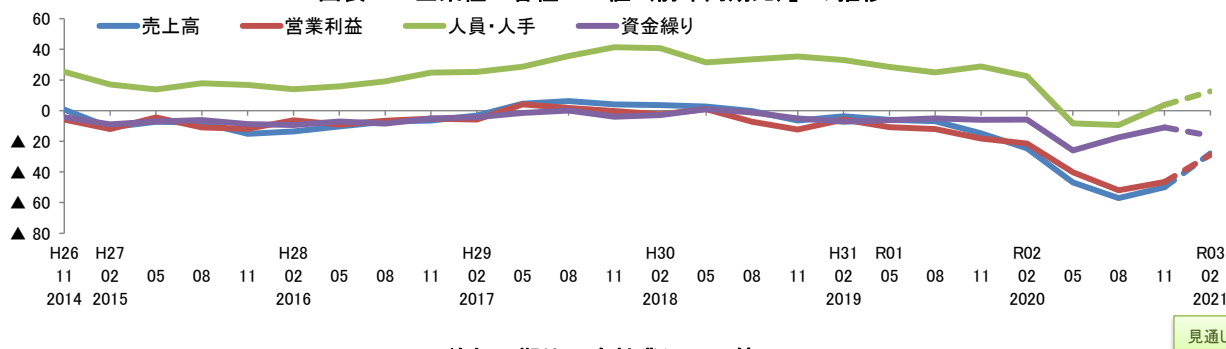
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲49.8（前回調査比5.7ポイント上昇）と6期ぶりに改善したものの、依然として低水準で推移している。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」「営業利益」は7期ぶりの改善、「資金繰り」は2期連続の改善となった。「人員・人手」は4期ぶりに上昇し、DI値がプラスに転じた。

先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲28.7（今回調査比21.1ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。前回調査から一部持ち直しの動きはみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響による先行きの不透明感は強く、引き続き慎重な姿勢がみられる。

図表 1 全業種「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 2 全業種「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

山形県 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	全業種	前回調査比	前回調査予測				
R 01. 11 (n=385)	▲ 15.3	(▲ 7.1)	▲ 12.7	▲ 14.8	▲ 18.2	28.8	▲ 6.0
R 02. 02 (n=412)	▲ 22.6	(▲ 7.3)	▲ 20.0	▲ 24.5	▲ 21.4	22.5	▲ 5.8
R 02. 05 (n=433)	▲ 45.3	(▲ 22.7)	▲ 31.8	▲ 46.8	▲ 40.2	▲ 8.3	▲ 25.9
R 02. 08 (n=413)	▲ 55.5	(▲ 10.2)	▲ 67.2	▲ 57.1	▲ 52.0	▲ 9.4	▲ 17.4
R 02. 11 (n=408)	▲ 49.8	(5.7)	▲ 50.6	▲ 50.0	▲ 46.6	3.7	▲ 11.0
前回調査比	-	-	-	(7.1)	(5.4)	(13.1)	(6.4)
先行き見通し	▲ 28.7	-	-	▲ 28.0	▲ 28.9	12.5	▲ 16.4
今回調査比	(21.1)	-	-	(22.0)	(17.7)	(8.8)	(▲ 5.4)

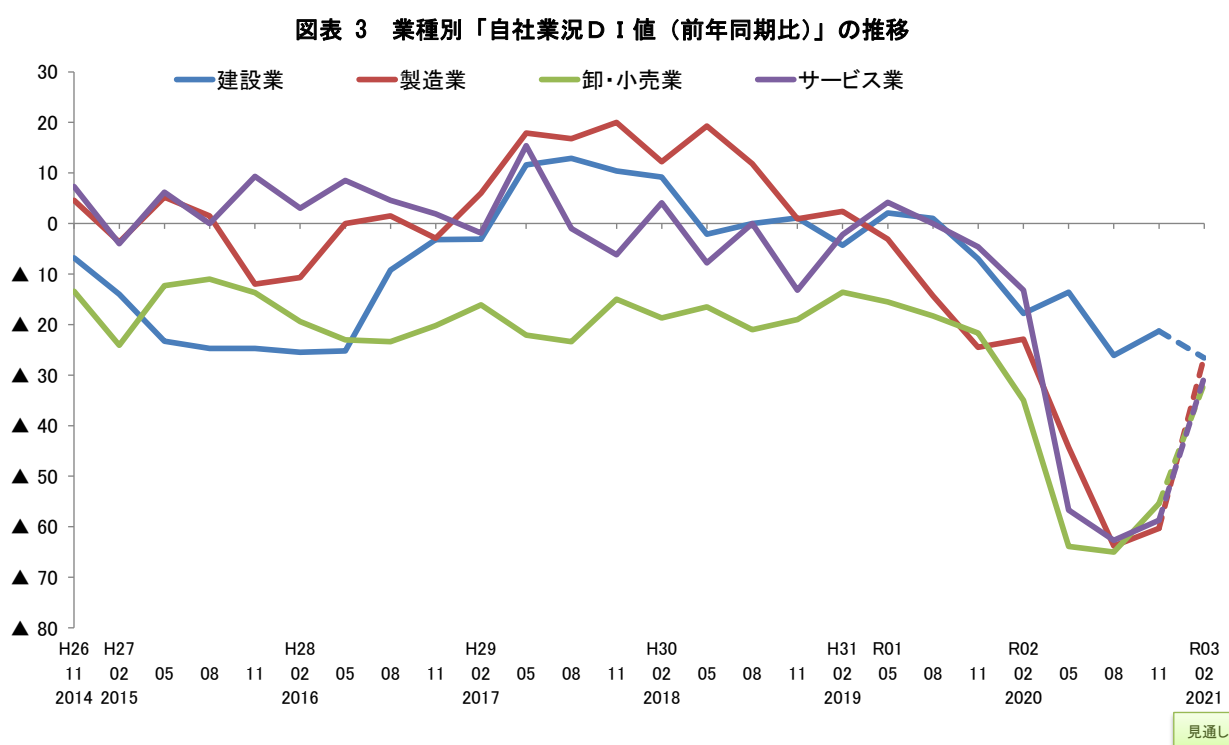
※「売上高」DI値は建設業の「完成工事高」を含んだ数値

2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況 D I 値（前年同期比）」をみると、建設業が▲21.3（前回調査比 4.8 ポイント上昇）、製造業が▲60.3（前回調査比 3.5 ポイント上昇）、卸・小売業が▲55.4（前回調査比 9.6 ポイント上昇）、サービス業が▲58.7（前回調査比 4.0 ポイント上昇）と、すべての業種で改善となったものの、建設業を除く 3 業種で低水準での推移が続いている。

業況の先行き見通しは、建設業で悪化が見込まれるものの、製造業、卸・小売業、サービス業で改善の見込みとなっている。



前年同期比の自社業況 D I 値

業種別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
R 01. 11 (n=385)	▲ 15.3	▲ 7.0	▲ 24.5	▲ 21.7	▲ 4.6
R 02. 02 (n=412)	▲ 22.6	▲ 17.8	▲ 22.9	▲ 35.0	▲ 13.2
R 02. 05 (n=433)	▲ 45.3	▲ 13.6	▲ 44.3	▲ 63.9	▲ 56.7
R 02. 08 (n=413)	▲ 55.5	▲ 26.1	▲ 63.8	▲ 65.0	▲ 62.7
R 02. 11 (n=408)	▲ 49.8	▲ 21.3	▲ 60.3	▲ 55.4	▲ 58.7
前回調査比	(5.7)	(4.8)	(3.5)	(9.6)	(4.0)
先行き見通し	▲ 28.7	▲ 26.6	▲ 26.4	▲ 31.7	▲ 30.5
今回調査比	(21.1)	(▲ 5.3)	(33.9)	(23.7)	(28.2)

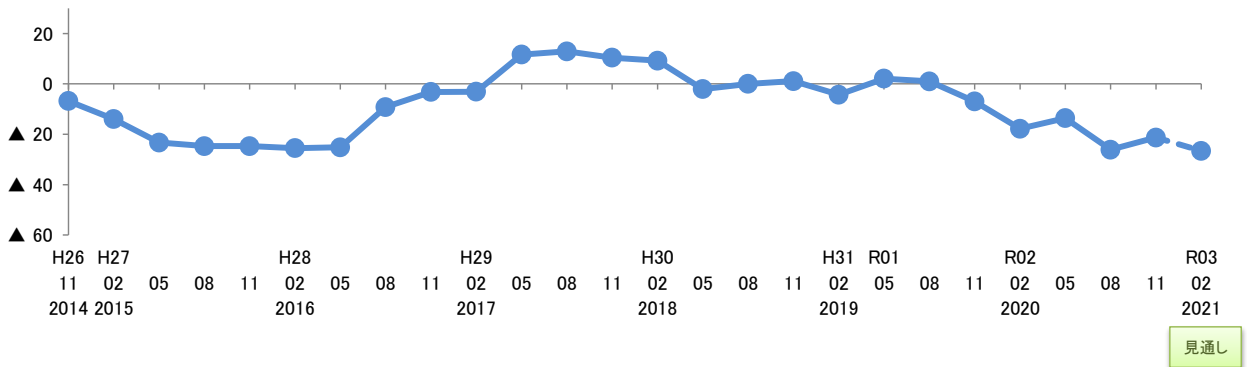
(2) 業種別 D I 値の動向

① 建設業

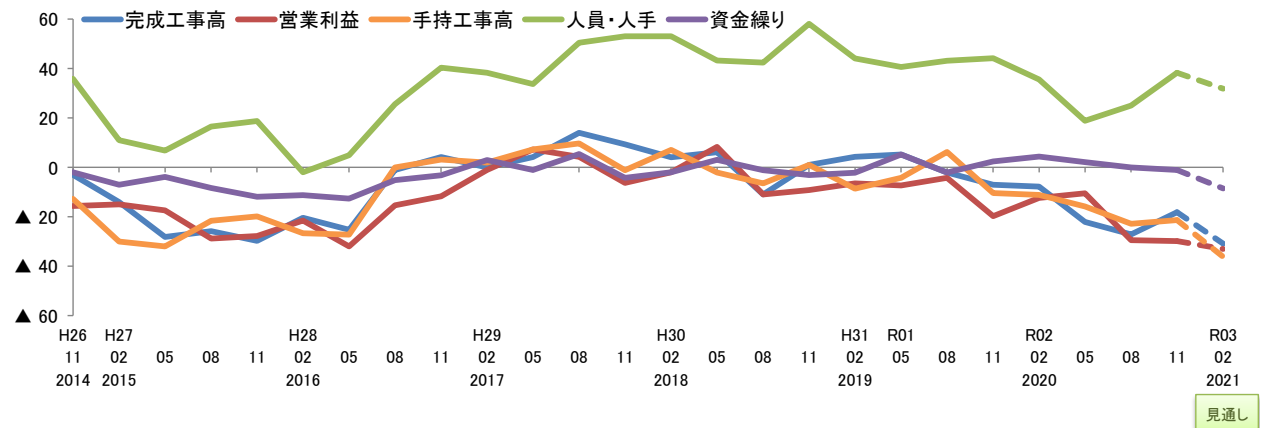
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲21.3（前回調査比 4.8 ポイント上昇）と、一進一退の状況となっている。「各種 D I 値（前年同期比）」をみると、「完成工事高」「手持工事高」は改善、「営業利益」はほぼ横ばいとなったものの、「資金繰り」は 3 期連続で悪化となり DI 値がマイナスに転じた。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントからは、一部で中止や延期が発生するなど民間工事が縮小傾向にあり、設備投資の動きも弱い状況が続いている様子がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲26.6（今回調査比 5.3 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 4 建設業「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 5 建設業「各種 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

建設業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
		前回調査比	前回調査予測					
R 01. 11 (n=86)	▲ 7.0	(▲ 8.0)	▲ 14.8	▲ 7.0	▲ 19.7	▲ 10.4	44.2	2.4
R 02. 02 (n=90)	▲ 17.8	(▲ 10.8)	▲ 27.9	▲ 7.8	▲ 12.3	▲ 11.1	35.6	4.4
R 02. 05 (n=95)	▲ 13.6	(4.2)	▲ 31.1	▲ 22.1	▲ 10.5	▲ 15.8	18.9	2.1
R 02. 08 (n=92)	▲ 26.1	(▲ 12.5)	▲ 49.5	▲ 27.1	▲ 29.4	▲ 22.8	25.0	0.0
R 02. 11 (n=94)	▲ 21.3	(4.8)	▲ 36.9	▲ 18.1	▲ 29.8	▲ 21.3	38.3	▲ 1.0
前回調査比	－	－	－	(9.0)	(▲ 0.4)	(1.5)	(13.3)	(▲ 1.0)
先行き見通し	▲ 26.6	－	－	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 36.2	31.9	▲ 8.5
今回調査比	(▲ 5.3)	－	－	(▲ 12.7)	(▲ 3.2)	(▲ 14.9)	(▲ 6.4)	(▲ 7.5)

業界の声

Q. 今期の業況について

- 個人消費は低水準にあり一進一退で推移している。依然として設備投資意欲は減退している。新型コロナウイルス感染拡大のため、一般住宅の新規着工やリフォーム工事の取り止め・延期が多い。(村山南)
- 住宅建築業界は、特に直接来店主力の住宅展示場がかなり苦戦しているようである。中小では、逆に棟数が増加し、大工と基礎業者を確保するのに苦労している。(村山北)
- 新型コロナの影響で工務店系の民間工事が減少しているため、公共工事の受注に対して競争が厳しくなっていると感じている。(最上)
- 公共土木工事の発注は依然減少傾向であるが、今年7月の大雨による災害復旧工事が今後多数発注される予定である。(置賜)
- 公共工事発注状況は増加傾向だが、人手不足で不調がみられる。(庄内田川)
- 民間企業において、新型コロナウイルスの影響で設備投資の先送りが発生している。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- コロナの影響でペンディング、計画縮小の案件が出てきており、来期への繰越工事が増えている。コロナの状況が長期化すれば、来々期から業況の見通しは悪くなる予想である。(村山南)
- 競争他社に負けないような技術力や技能を身につけないといけないと思う。資格取得や技能向上に努める。(村山北)
- 今期、来期までの仕事は確保できているが、年明け以降が不透明であり、低調になるのではと感じている。(最上)
- 災害復旧の関連工事が増えると思われる。工事が災害箇所に集中する。(置賜)
- 職人・作業員が高齢化しており、求人募集をしても入ってこないため、今後機械化できる所は機械化したいと考えている。(置賜)
- 今期は例年の状態をキープできたが、来期はコロナの関係で公共工事の発注が減るのではないかと不安視している。(庄内田川)
- 人手不足問題が解消せず、求人対策が急務である。(庄内飽海)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 家庭内での需要が増えたためか、菓子業界全般で好調である。(村山南)
- 部門により、限定的だが売り上げの増加傾向が出てきて少し明るさが見られる。町や県の支援キャンペーンに対するお客さまの反応が良い。(村山北)
- 半導体など一部の業界について回復の兆しが見えているようだが、客先によってばらつきがある。自動車や食品などの自動機については相変わらず低迷しており、リーマンショック時よりもひどい状況になっている。(村山北)
- 建築鉄骨業界は、過去最大の落ち込みだったリーマンショック時の落ち込みを上回る数字で推移している。二極化が進んでおり、さらに加速すると思われる。(最上)
- 業界、地域経済ともに新型コロナウイルスの影響をかなり深刻に受けており、厳しい状況が続いている。(置賜)
- 業界は飲食店の不振状況が続いているため、景気は低迷している。(置賜)
- コロナ禍による外食産業の減益が波及し、出荷量はさほど変わらないが、利益率が大幅に削減されている。(庄内田川)
- 元々、米中貿易摩擦による影響が多かった業界はコロナ禍以後も低調な状況が続いている(液晶パネル、半導体)。産業機械等の顧客はコロナ禍で大きなダメージが残っている。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

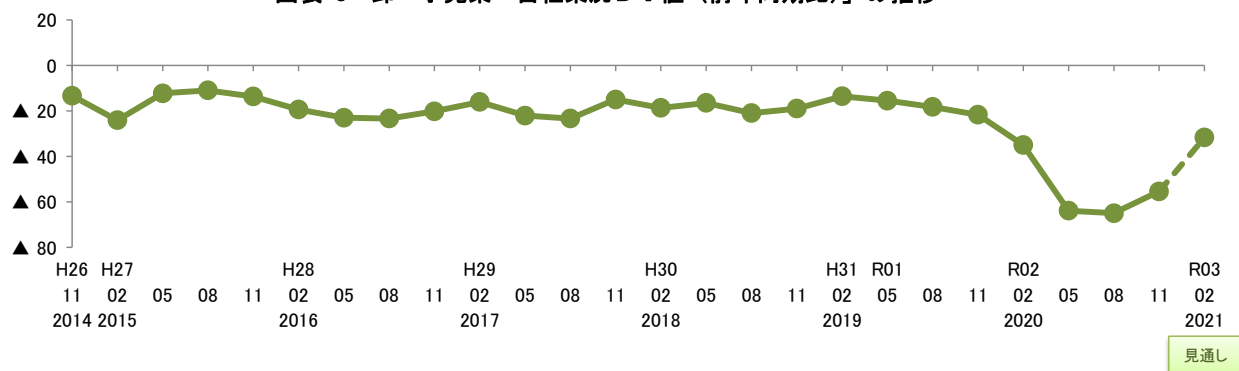
- 原材料は高くなることが予想され、資金繰りは厳しくなると思われる。(村山南)
- 主力製品のブラッシングと、製造省力化の取り組みを進めたい。(村山北)
- 人員確保策として外国人技能実習生の受入を行っているが、新型コロナによる渡航制限の影響を受けている。徐々に規制緩和が進んでいるが、2週間の自主隔離の影響は大きい。(最上)
- 新型コロナウイルスの影響で得意先への直接訪問営業に制限が続いているため、営業部中心にテレワーク等のコミュニケーション手段の開発を続けている。(置賜)
- コロナ禍での受注減は厳しい状況にあり、併せて政治・経済リスクの影響も考えられるため、先行きは不透明である。(庄内飽海)

③ 卸・小売業

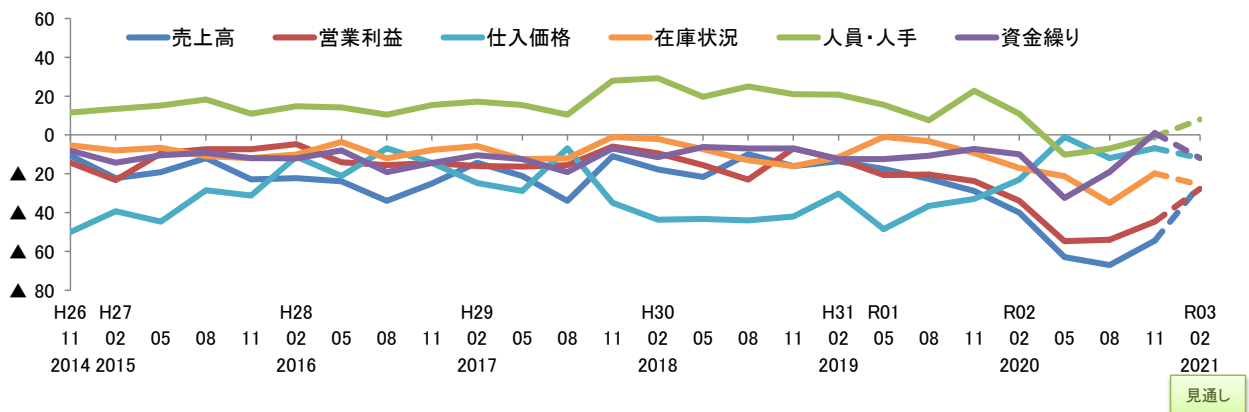
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲55.4（前回調査比 9.6 ポイント上昇）と 7 期ぶりに改善となった。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」が 7 期ぶり、「在庫状況」が 6 期ぶりに改善したほか、「営業利益」「仕入価格」も改善となった。「資金繰り」も大幅に改善し、DI 値がプラスに転じた。「人員・人手」は 2 期連続でプラス幅が拡大した。各社のコメントからは、依然として新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続く企業が多いなか、一部では少しずつ回復しつつある様子がみられる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲31.7（今回調査比 23.7 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

卸・小売業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業 利益	仕入 価格	在庫 状況	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測							
R 01. 11（n=97）	▲ 21. 7	（▲ 3. 4）	▲ 12. 9	▲ 28. 8	▲ 23. 7	▲ 33. 0	▲ 9. 3	22. 7	▲ 7. 2
R 02. 02（n=100）	▲ 35. 0	（▲ 13. 3）	▲ 30. 9	▲ 40. 0	▲ 34. 0	▲ 23. 0	▲ 17. 0	11. 0	▲ 10. 0
R 02. 05（n=108）	▲ 63. 9	（▲ 28. 9）	▲ 39. 0	▲ 62. 9	▲ 54. 7	▲ 1. 0	▲ 21. 3	▲ 10. 2	▲ 32. 4
R 02. 08（n=100）	▲ 65. 0	（▲ 1. 1）	▲ 79. 6	▲ 67. 0	▲ 54. 0	▲ 12. 0	▲ 35. 0	▲ 7. 0	▲ 19. 0
R 02. 11（n=101）	▲ 55. 4	（9. 6）	▲ 60. 0	▲ 54. 5	▲ 44. 6	▲ 6. 9	▲ 19. 8	▲ 0. 9	1. 0
前回調査比	－	－	－	（12. 5）	（9. 4）	（5. 1）	（15. 2）	（6. 1）	（20. 0）
先行き見通し	▲ 31. 7	－	－	▲ 25. 8	▲ 27. 7	▲ 11. 9	▲ 25. 7	8. 0	▲ 11. 9
今回調査比	（23. 7）	－	－	（28. 7）	（16. 9）	（▲ 5. 0）	（▲ 5. 9）	（8. 9）	（▲ 12. 9）

Q. 今期の業況について

業界の声

- 業界（工作機械工具販売業）の得意先である生産工場は、直近では一部に回復の兆しが見えるものの、そのほとんどは国内外の需要の落ち込みから減産や帰休が継続しており、先行きが見えない状況である。（村山南）
- コロナ禍ではあるが、団体の予約が徐々に戻りつつある。（村山北）
- 業務用の食材や土産品の売り上げが低迷したままである。（最上）
- 4～6月頃は灯が消えたようだったが、最近はGoToキャンペーンなどで来店客が増えている。（置賜）
- コロナの影響で売れなくなったジャンルと売れるジャンルの明暗が分かれているが、全体としては売れており、昨年よりも購入する来店者が多くなっていると思われる。連休は駐車場を半分にするなどコロナ対策を取ったが、売り上げは落ちなかった。（庄内田川）
- 低迷状態が続いている。販売価格は下がる一方で利益も圧縮されている。（庄内飽海）

Q. 来期の見通しや対策等について

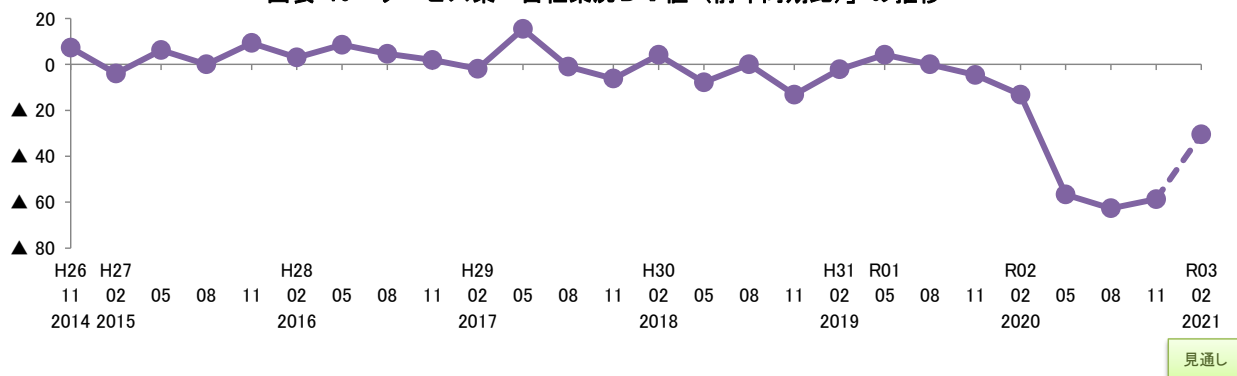
- 徐々に回復傾向にあるものの、まだまだ予断を許さない状況が続くと思われる。（村山南）
- 全社で新規取引先の開拓、新規販売商品の開拓、併せて残業時間の削減を進めて生産性の向上とスキルアップに取り組んでいる。（村山南）
- 現段階ではかなり厳しい状況と判断されるが、ワクチン等の薬の開発や国の支援策次第では、幾分業況が改善される可能性もある。（最上）
- コロナの影響でリモートワークやSTAYホームが奨励されているためか、通販と店頭販売が好調である。通販の品切れを減らし機会損失を無くすため、大きな設備投資を検討している。（置賜）
- コロナ感染拡大前の売り上げに戻ることはないとみている。あらゆる助成金を利用して何とか商売を継続しているが、これからも売上減は確実なので、さらなるコストダウン、新規得意先、withコロナに合わせた商品づくり、体制等の構築を急ぎ、難局を乗り切りたい。（庄内田川）
- 当面の間は現在のような消費低迷が続くと予想する。（庄内飽海）

④ サービス業

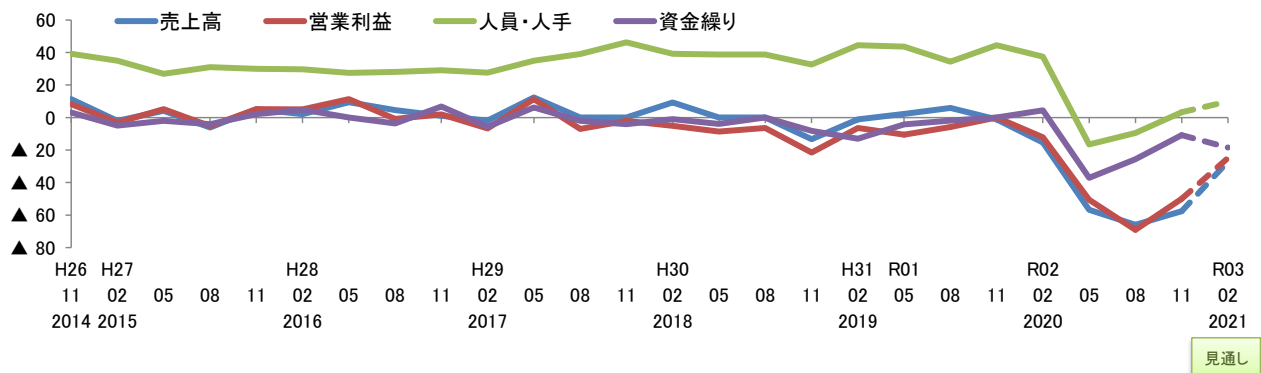
「自社の業況DI値（前年同期比）」は▲58.7（前回調査比 4.0 ポイント上昇）と 6 期ぶりに改善した。「各種DI値（前年同期比）」をみると、「売上高」が 5 期ぶり、「営業利益」が 4 期ぶりに改善となり、「資金繰り」も 2 期連続で改善となった。「人員・人手」はプラス幅が拡大し、DI 値がプラスに転じた。各社のコメントからは、観光業や宿泊業で各種クーポン券の発行やキャンペーンの実施により、業況回復の動きが見え始めている状況がうかがえる。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値（前年同期比）」が▲30.5（今回調査比 28.2 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



図表 11 サービス業「各種DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			売上高	営業利益	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測					
R 01.11 (n=88)	▲ 4.6	(▲ 4.6)	▲ 6.9	▲ 1.1	0.0	44.4	0.0
R 02.02 (n=91)	▲ 13.2	(▲ 8.6)	▲ 9.1	▲ 15.4	▲ 12.1	37.4	4.4
R 02.05 (n=97)	▲ 56.7	(▲ 43.5)	▲ 28.6	▲ 56.7	▲ 50.6	▲ 16.5	▲ 37.1
R 02.08 (n=94)	▲ 62.7	(▲ 6.0)	▲ 77.4	▲ 66.0	▲ 69.1	▲ 9.5	▲ 25.6
R 02.11 (n=92)	▲ 58.7	(4.0)	▲ 56.4	▲ 57.6	▲ 50.0	3.2	▲ 10.9
前回調査比	-	-	-	(8.4)	(19.1)	(12.7)	(14.7)
先行き見通し	▲ 30.5	-	-	▲ 27.2	▲ 25.0	9.8	▲ 18.5
今回調査比	(28.2)	-	-	(30.4)	(25.0)	(6.6)	(▲ 7.6)

Q. 今期の業況について

業界の声

- 飲食部門で個人客は戻ってきているが、団体の集客が厳しい状況にある。(村山南)
- イベントなどは感染対策を行いながら徐々に開催している。しかし以前の水準には届いていない。(村山南)
- GoTo キャンペーンで宿泊売り上げは前年並みで推移するも、日帰り(宴会・法要)の利用がほとんどない。(村山北)
- 感染リスクの高い高齢者サービス事業体がお客さまであり、直接営業が困難な状況にあり、オンライン営業比率が増加している。イベント開催・集客も困難な状況にあり、インサイドセールスなどお客さま接点度数の増加策への移行が進んできている。(置賜)
- GoTo キャンペーンが行われるようになり、他のクーポン併用が可能になってからは売り上げが伸びている。(庄内田川)
- GoTo キャンペーンや修学旅行があり、多少は仕事が出てきたが全般として非常に厳しい。(庄内飽海)

Q. 来期の見通しや対策等について

- 来期はコロナ禍と経済のバランス政策の如何によるが、米国・ヨーロッパのコロナ禍拡大もあり、今後の見通しも厳しいと考えている。(村山南)
- 短期的には大幅な縮小はないものの、公共投資規模縮小が予想されている。(村山北)
- インターネット販売の補助事業化による商品開発、インターネット販売環境の整備を行っていく。(最上)
- 当社のパッケージソフトをコロナ禍に適合させるべく開発投資を考えている。(置賜)
- 11 月に入り食品スーパーの荷量が落ち着き始めているが、冬季間に入りコロナとインフルエンザ等の状況によっては先が見通せないため判断は難しい状況である。(庄内田川)
- 時短営業や完全予約制来店などで現状スタッフの業務効率化を考えている。(庄内飽海)

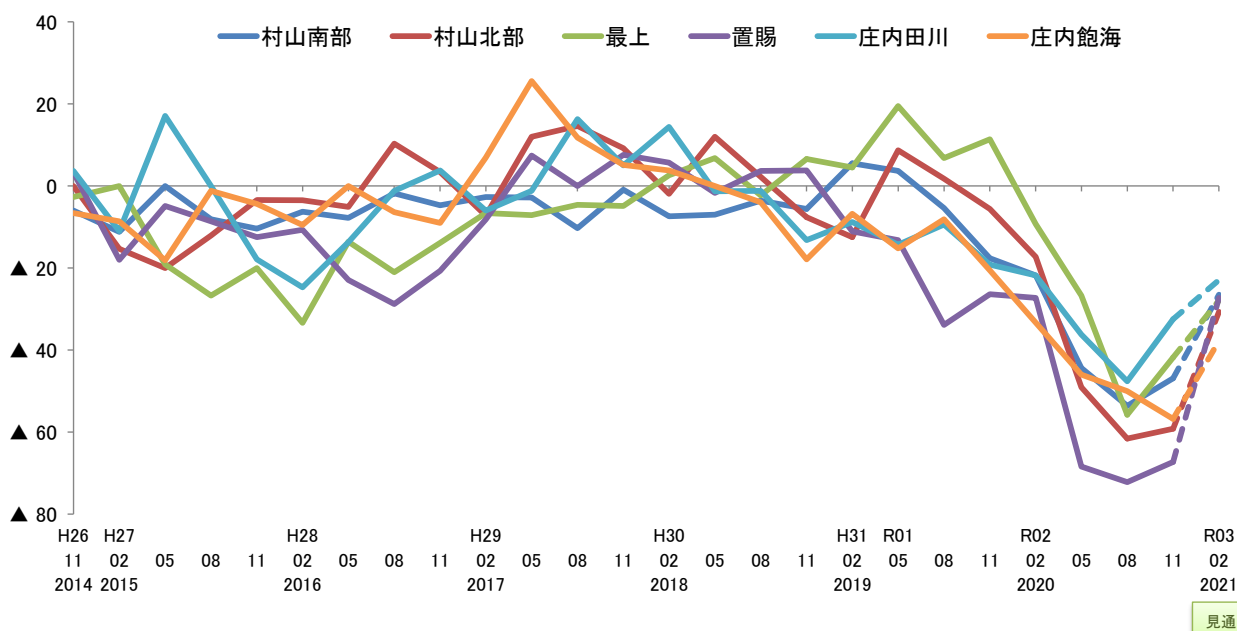
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値（前年同期比）」をみると、村山南部が▲46.9（前回調査比 6.7 ポイント上昇）、村山北部が▲59.2（前回調査比 2.4 ポイント上昇）、最上が▲41.8（前回調査比 14.0 ポイント上昇）、置賜が▲67.3（前回調査比 4.9 ポイント上昇）、庄内田川が▲32.5（前回調査比 15.1 ポイント上昇）、庄内飽海が▲56.8（前回調査比 6.8 ポイント下落）と、庄内飽海で悪化したものの、その他の5地域で改善となった。

業況の先行き見通しをみると、すべての地域で改善が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）						
	全地域	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
R 01. 11 (n=385)	▲ 15.3	▲ 17.6	▲ 5.6	11.4	▲ 26.4	▲ 19.2	▲ 20.6
R 02. 02 (n=412)	▲ 22.6	▲ 21.8	▲ 17.3	▲ 9.3	▲ 27.3	▲ 21.8	▲ 33.3
R 02. 05 (n=433)	▲ 45.3	▲ 44.4	▲ 49.1	▲ 26.7	▲ 68.4	▲ 36.2	▲ 46.0
R 02. 08 (n=413)	▲ 55.5	▲ 53.6	▲ 61.6	▲ 55.8	▲ 72.2	▲ 47.6	▲ 50.0
R 02. 11 (n=408)	▲ 49.8	▲ 46.9	▲ 59.2	▲ 41.8	▲ 67.3	▲ 32.5	▲ 56.8
前回調査比	(5.7)	(6.7)	(2.4)	(14.0)	(4.9)	(15.1)	(▲ 6.8)
先行き見通し	▲ 28.7	▲ 26.5	▲ 30.7	▲ 27.9	▲ 27.3	▲ 22.9	▲ 37.8
今回調査比	(21.1)	(20.4)	(28.5)	(13.9)	(40.0)	(9.6)	(19.0)

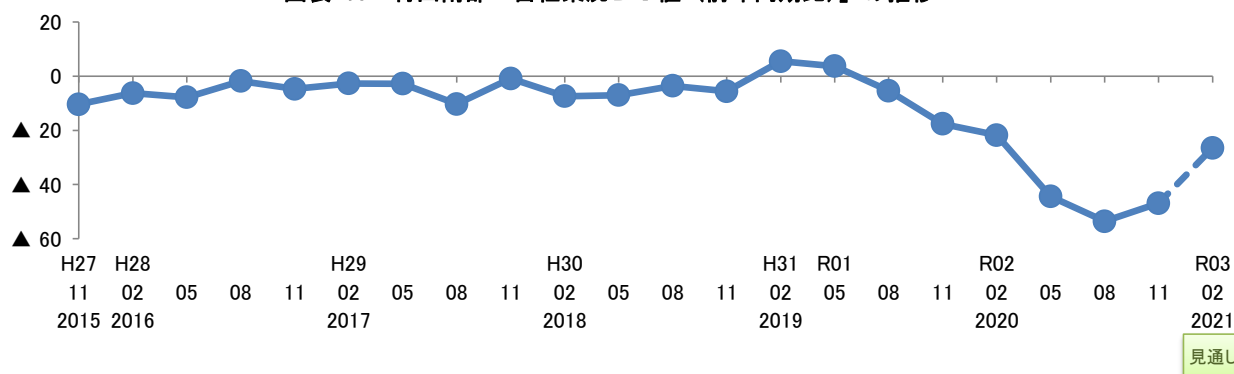
(2) 地域別 D I 値の動向

① 村山南部

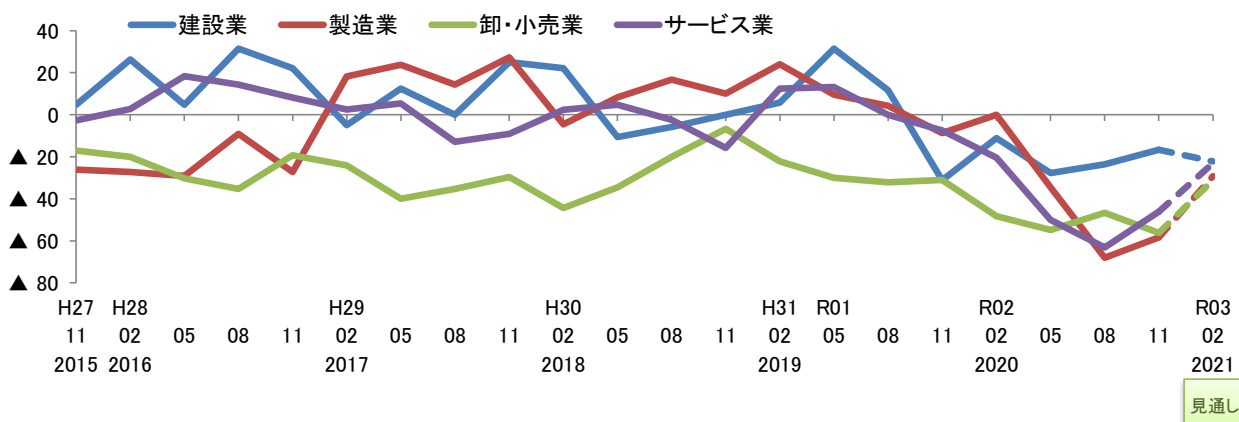
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲46.9（前回調査比 6.7 ポイント上昇）と 7 期ぶりに改善となった。業種別にみると、卸・小売業で悪化となり、その他の 3 業種で改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲26.5（今回調査比 20.4 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 13 村山南部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 14 村山南部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

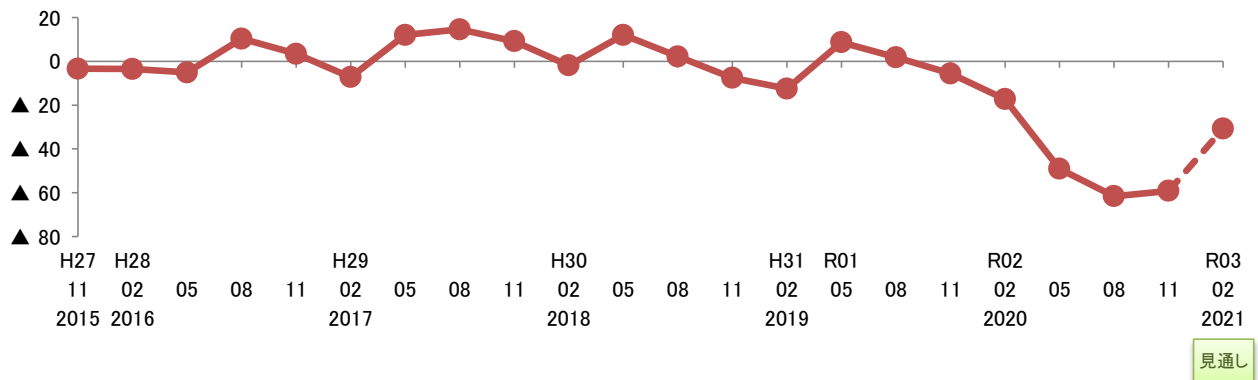
村山南部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 01. 11 (n=108)	▲ 17.6	(▲ 12.2)	▲ 5.3	▲ 31.2	▲ 8.7	▲ 31.0	▲ 7.5
R 02. 02 (n=115)	▲ 21.8	(▲ 4.2)	▲ 17.6	▲ 11.1	0.0	▲ 48.3	▲ 20.5
R 02. 05 (n=115)	▲ 44.4	(▲ 22.6)	▲ 35.6	▲ 27.7	▲ 34.6	▲ 54.8	▲ 50.0
R 02. 08 (n=110)	▲ 53.6	(▲ 9.2)	▲ 68.7	▲ 23.6	▲ 68.0	▲ 46.7	▲ 63.2
R 02. 11 (n=113)	▲ 46.9	(6.7)	▲ 46.3	▲ 16.6	▲ 58.4	▲ 56.2	▲ 46.2
前回調査比	-	-	-	(7.0)	(9.6)	(▲ 9.5)	(17.0)
先行き見通し	▲ 26.5	-	-	▲ 22.2	▲ 29.2	▲ 31.2	▲ 23.1
今回調査比	(20.4)	-	-	(▲ 5.6)	(29.2)	(25.0)	(23.1)

② 村山北部

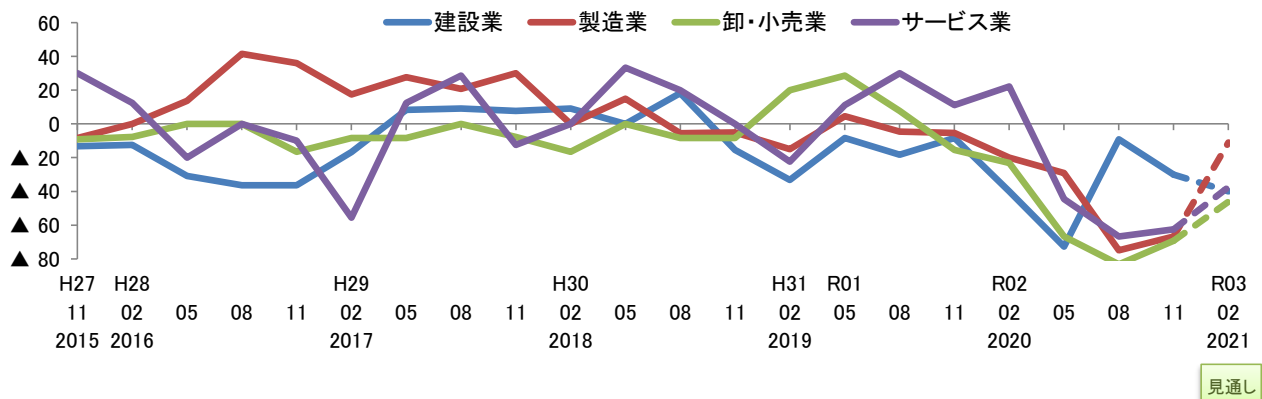
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲59.2（前回調査比 2.4 ポイント上昇）と 6 期ぶりに改善した。業種別にみると、建設業で大幅な悪化となり、その他の 3 業種で改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲30.7（今回調査比 28.5 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 15 村山北部「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 16 村山北部「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

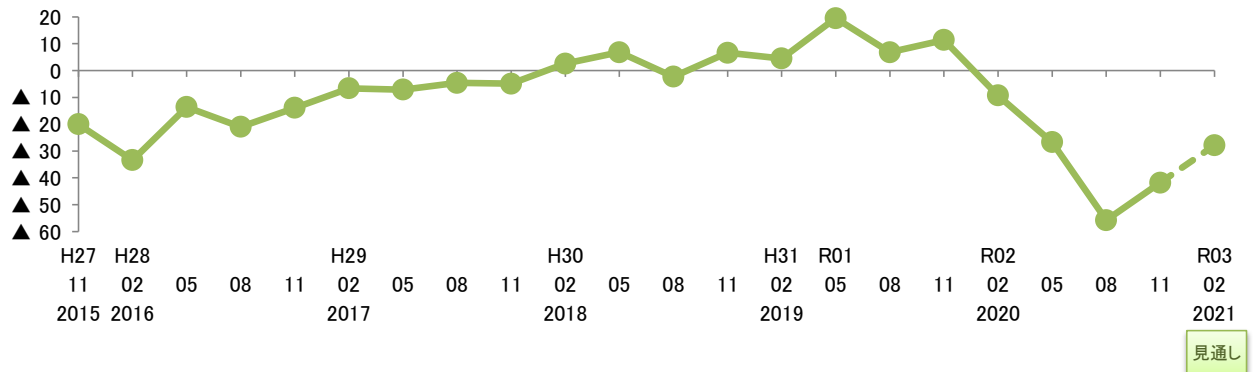
村山北部 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 01. 11 (n=53)	▲ 5. 6	(▲ 7. 4)	▲ 7. 1	▲ 8. 3	▲ 5. 3	▲ 15. 4	11. 1
R 02. 02 (n=52)	▲ 17. 3	(▲ 11. 7)	▲ 32. 1	▲ 40. 0	▲ 20. 0	▲ 23. 1	22. 2
R 02. 05 (n=59)	▲ 49. 1	(▲ 31. 8)	▲ 30. 8	▲ 72. 7	▲ 29. 2	▲ 66. 7	▲ 44. 5
R 02. 08 (n=52)	▲ 61. 6	(▲ 12. 5)	▲ 66. 1	▲ 9. 1	▲ 75. 0	▲ 83. 3	▲ 66. 7
R 02. 11 (n=49)	▲ 59. 2	(2. 4)	▲ 57. 7	▲ 30. 0	▲ 66. 7	▲ 69. 2	▲ 62. 5
前回調査比	-	-	-	(▲ 20. 9)	(8. 3)	(14. 1)	(4. 2)
先行き見通し	▲ 30. 7	-	-	▲ 40. 0	▲ 11. 1	▲ 46. 2	▲ 37. 5
今回調査比	(28. 5)	-	-	(▲ 10. 0)	(55. 6)	(23. 0)	(25. 0)

③ 最 上

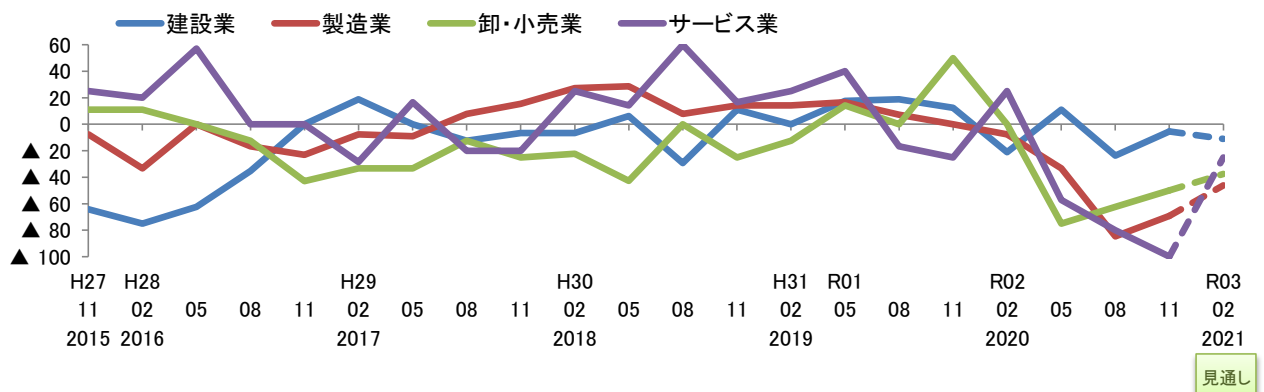
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲41.8（前回調査比 14.0 ポイント上昇）と 4 期ぶりに改善した。業種別にみると、サービス業で大幅な悪化となり、その他の 3 業種で改善となっている。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲27.9（今回調査比 13.9 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 17 最上「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 18 最上「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

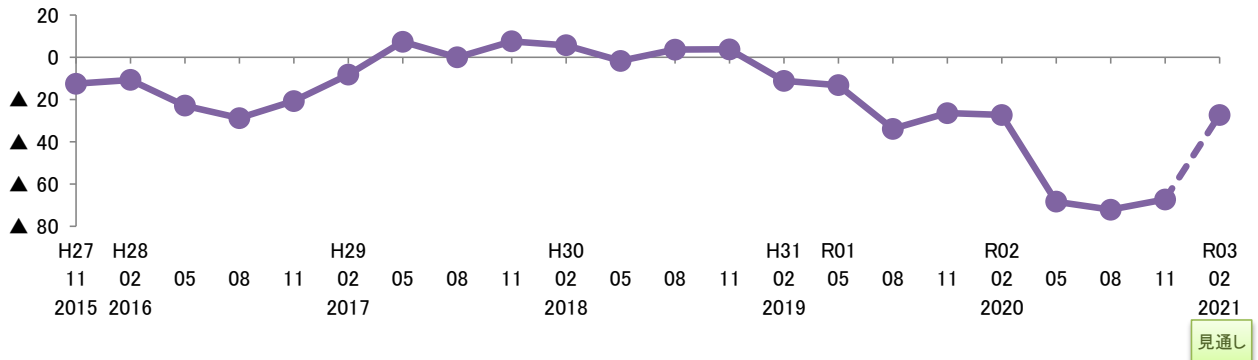
最 上 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 01. 11 (n=35)	11.4	(4.6)	2.2	12.5	0.0	50.0	▲ 25.0
R 02. 02 (n=43)	▲ 9.3	(▲ 20.7)	▲ 5.7	▲ 21.0	▲ 7.7	0.0	25.0
R 02. 05 (n=45)	▲ 26.7	(▲ 17.4)	▲ 27.9	11.1	▲ 33.4	▲ 75.0	▲ 57.1
R 02. 08 (n=43)	▲ 55.8	(▲ 29.1)	▲ 68.9	▲ 23.6	▲ 84.6	▲ 62.5	▲ 80.0
R 02. 11 (n=43)	▲ 41.8	(14.0)	▲ 39.5	▲ 5.5	▲ 69.2	▲ 50.0	▲ 100.0
前回調査比	-	-	-	(18.1)	(15.4)	(12.5)	(▲ 20.0)
先行き見通し	▲ 27.9	-	-	▲ 11.1	▲ 46.2	▲ 37.5	▲ 25.0
今回調査比	(13.9)	-	-	(▲ 5.6)	(23.0)	(12.5)	(75.0)

④ 置 賜

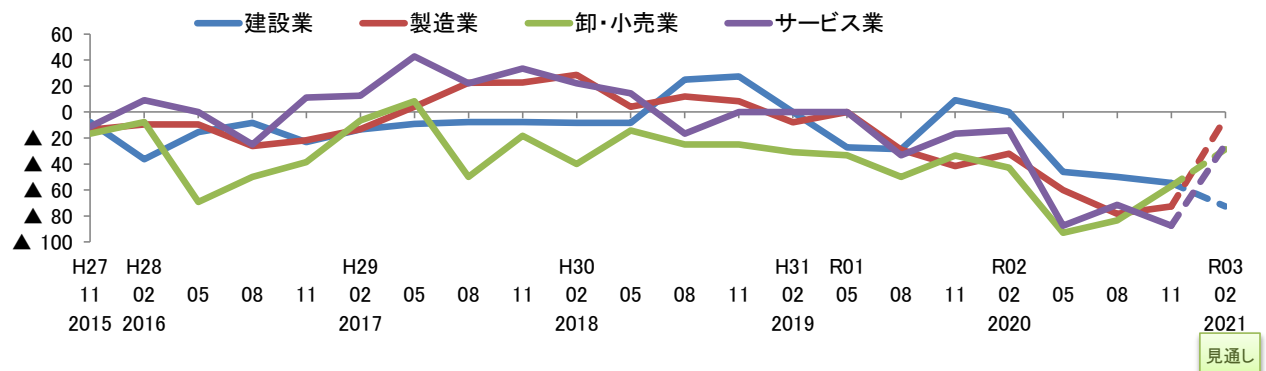
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲67.3（前回調査比 4.9 ポイント上昇）と 4 期ぶりに改善となった。
業種別にみると、建設業とサービス業で悪化したものの、製造業と卸・小売業で改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲27.3（今回調査比 40.0 ポイント上昇）と改善が見込まれている。

図表 19 置賜「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 20 置賜「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

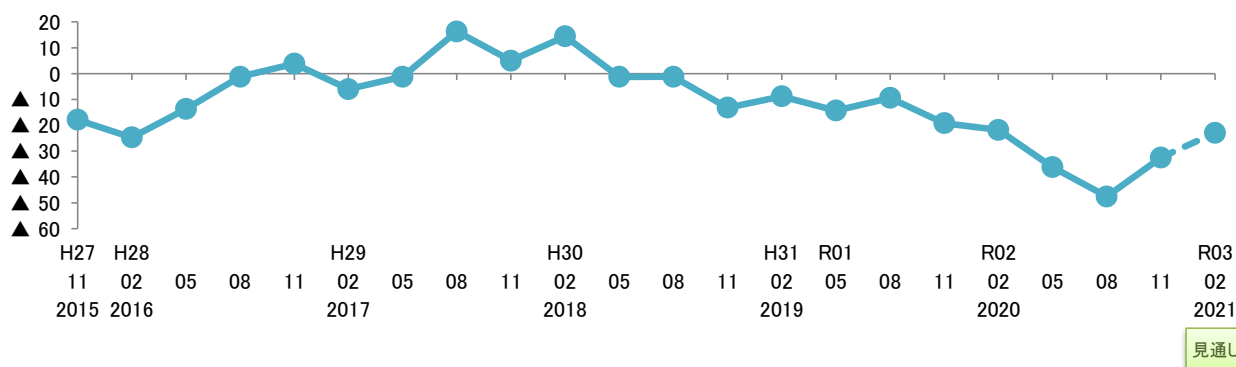
置 賜 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建 設	製 造	卸・小売	サービ
R 01. 11 (n=53)	▲ 26.4	(7.5)	▲ 35.7	9.1	▲ 41.6	▲ 33.4	▲ 16.6
R 02. 02 (n=55)	▲ 27.3	(▲ 0.9)	▲ 24.5	0.0	▲ 32.0	▲ 42.8	▲ 14.3
R 02. 05 (n=60)	▲ 68.4	(▲ 41.1)	▲ 47.2	▲ 46.1	▲ 60.0	▲ 92.9	▲ 87.5
R 02. 08 (n=54)	▲ 72.2	(▲ 3.8)	▲ 68.3	▲ 50.0	▲ 78.3	▲ 83.3	▲ 71.4
R 02. 11 (n=55)	▲ 67.3	(4.9)	▲ 48.1	▲ 54.5	▲ 72.7	▲ 57.1	▲ 87.5
前回調査比	-	-	-	(▲ 4.5)	(5.6)	(26.2)	(▲ 16.1)
先行き見通し	▲ 27.3	-	-	▲ 72.7	▲ 4.6	▲ 28.6	▲ 25.0
今回調査比	(40.0)	-	-	(▲ 18.2)	(68.1)	(28.5)	(62.5)

⑤ 庄内田川

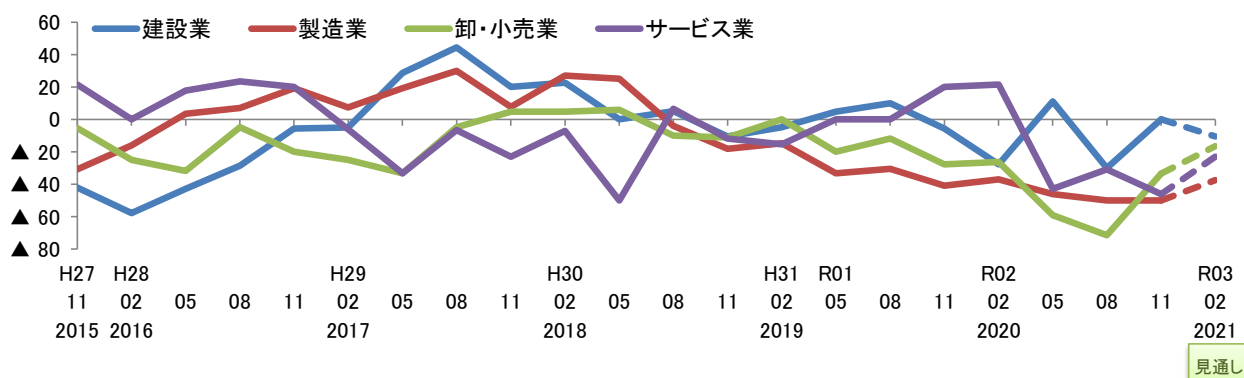
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲32.5（前回調査比 15.1 ポイント上昇）と 5 期ぶりに改善となった。業種別にみると、製造業で横ばいとなり、建設業と卸・小売業で大幅に改善したものの、サービス業で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲22.9（今回調査 9.6 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 21 庄内田川「自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 22 庄内田川「業種別・自社業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

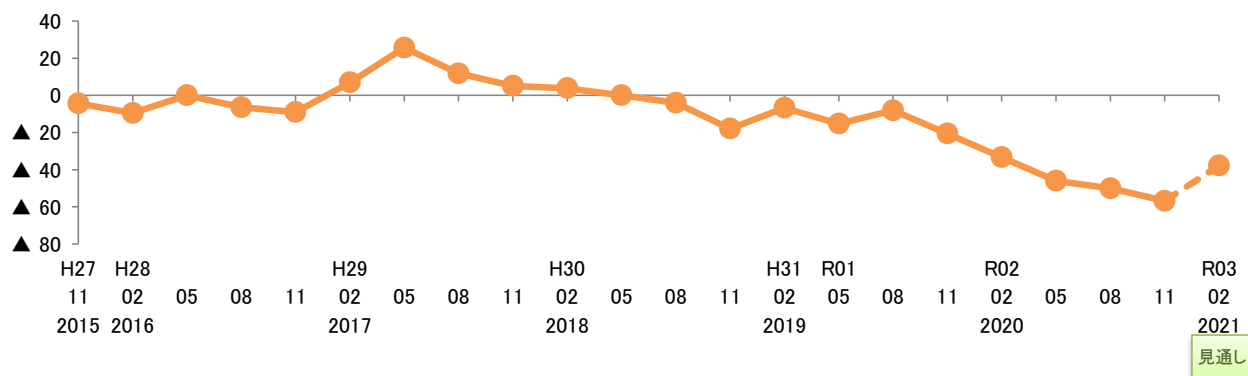
庄内田川 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 01. 11 (n=68)	▲ 19.2	(▲ 9.8)	▲ 18.9	▲ 5.6	▲ 41.0	▲ 27.7	20.0
R 02. 02 (n=78)	▲ 21.8	(▲ 2.6)	▲ 10.3	▲ 27.8	▲ 37.0	▲ 26.3	21.5
R 02. 05 (n=80)	▲ 36.2	(▲ 14.4)	▲ 29.5	11.1	▲ 46.1	▲ 59.1	▲ 42.8
R 02. 08 (n=82)	▲ 47.6	(▲ 11.4)	▲ 63.7	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 71.5	▲ 30.8
R 02. 11 (n=74)	▲ 32.5	(15.1)	▲ 51.3	0.0	▲ 50.0	▲ 33.4	▲ 46.1
前回調査比	-	-	-	(30.0)	(0.0)	(38.1)	(▲ 15.3)
先行き見通し	▲ 22.9	-	-	▲ 10.5	▲ 37.5	▲ 16.6	▲ 23.1
今回調査比	(9.6)	-	-	(▲ 10.5)	(12.5)	(16.8)	(23.0)

⑥ 庄内飽海

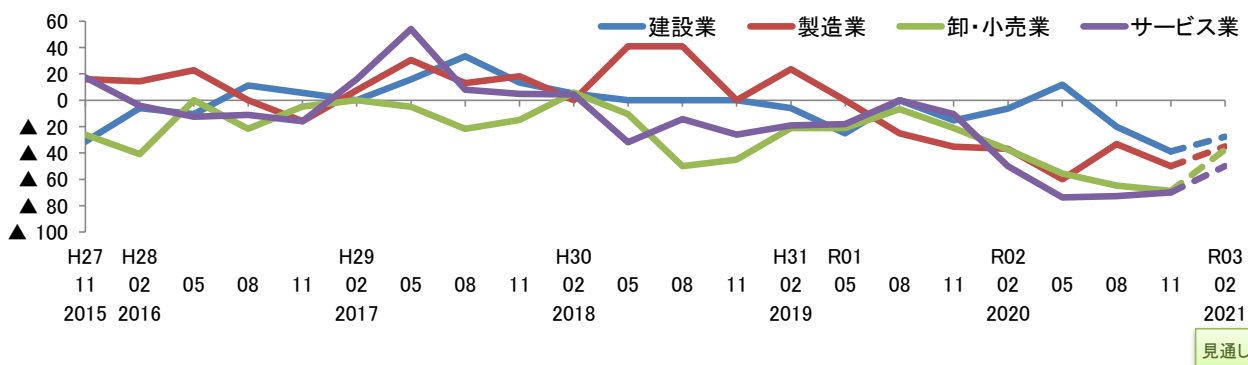
「自社の業況 D I 値（前年同期比）」は▲56.8（前回調査比 6.8 ポイント下落）と 5 期連続で悪化となった。
業種別にみると、サービス業で改善となり、その他 3 業種で悪化となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況 D I 値（前年同期比）」が▲37.8（今回調査比 19.0 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている。

図表 23 庄内飽海「自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



図表 24 庄内飽海「業種別・自社の業況 D I 値（前年同期比）」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

庄内飽海 調査時（サンプル数）	自社業況（前年同期比）			業種別/自社業況（前年同期比）			
	全業種	前回調査比	前回調査予測	建設	製造	卸・小売	サービス
R 01. 11 (n=68)	▲ 20.6 (▲ 12.5)	▲ 13.5	▲ 15.4	▲ 35.3	▲ 21.0	▲ 10.6	
R 02. 02 (n=69)	▲ 33.3 (▲ 12.7)	▲ 28.0	▲ 6.3	▲ 36.9	▲ 37.5	▲ 50.0	
R 02. 05 (n=74)	▲ 46.0 (▲ 12.7)	▲ 18.9	11.8	▲ 60.0	▲ 55.5	▲ 73.7	
R 02. 08 (n=72)	▲ 50.0 (▲ 4.0)	▲ 67.5	▲ 20.0	▲ 33.3	▲ 64.7	▲ 72.7	
R 02. 11 (n=74)	▲ 56.8 (▲ 6.8)	▲ 59.7	▲ 38.8	▲ 50.0	▲ 68.8	▲ 70.0	
前回調査比	-	-	(▲ 18.8)	(▲ 16.7)	(▲ 4.1)	(2.7)	
先行き見通し	▲ 37.8	-	▲ 27.7	▲ 35.0	▲ 37.5	▲ 50.0	
今回調査比	(19.0)	-	(11.1)	(15.0)	(31.3)	(20.0)	

II. 景気天気予報図

【天気図の凡例】

特に好調	好調	まあまあ	不振	きわめて不振
$D \geq 30$	$30 > D \geq 10$	$10 > D \geq \Delta 10$	$\Delta 10 > D \geq \Delta 30$	$\Delta 30 > D$

山 形 県

今期の業況 → 来期の見通し

庄内飽海

→

最 上

→

庄内田川

→

村山北部

→

置 賜

→

村山南部

→

今期の概況

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

来期の見通し

	山形県	村山南部	村山北部	最上	置賜	庄内田川	庄内飽海
全業種							
建設業							
製造業							
卸・小売業							
サービス業							

III. 特別調査

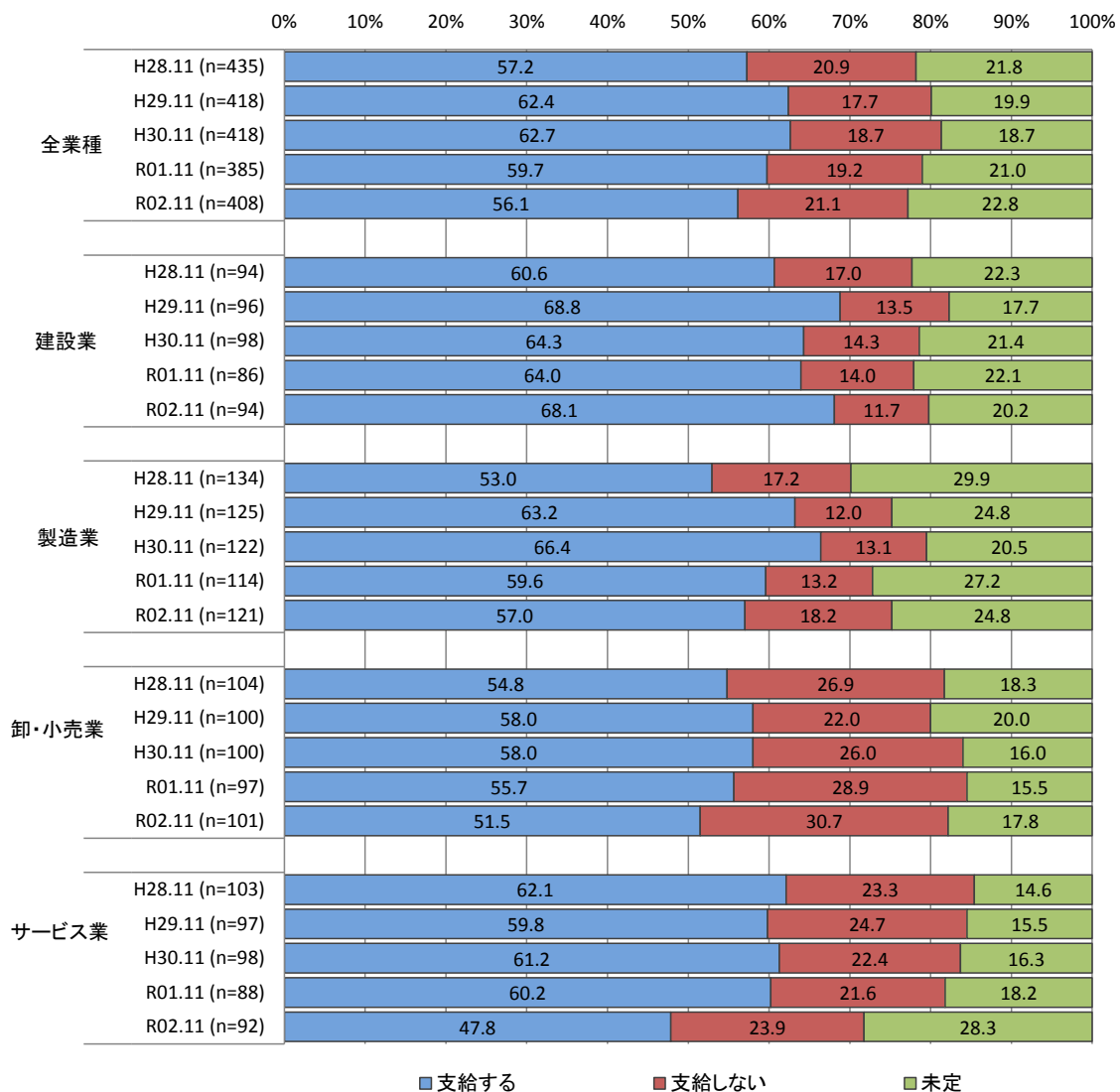
1. 冬季ボーナスについて

(1) 支給予定動向

冬季ボーナスの支給予定について尋ねたところ、全業種でみると「支給する」と回答した企業の割合は 56.1%（前年比 3.6 ポイント低下）と、2 年連続で低下となった。

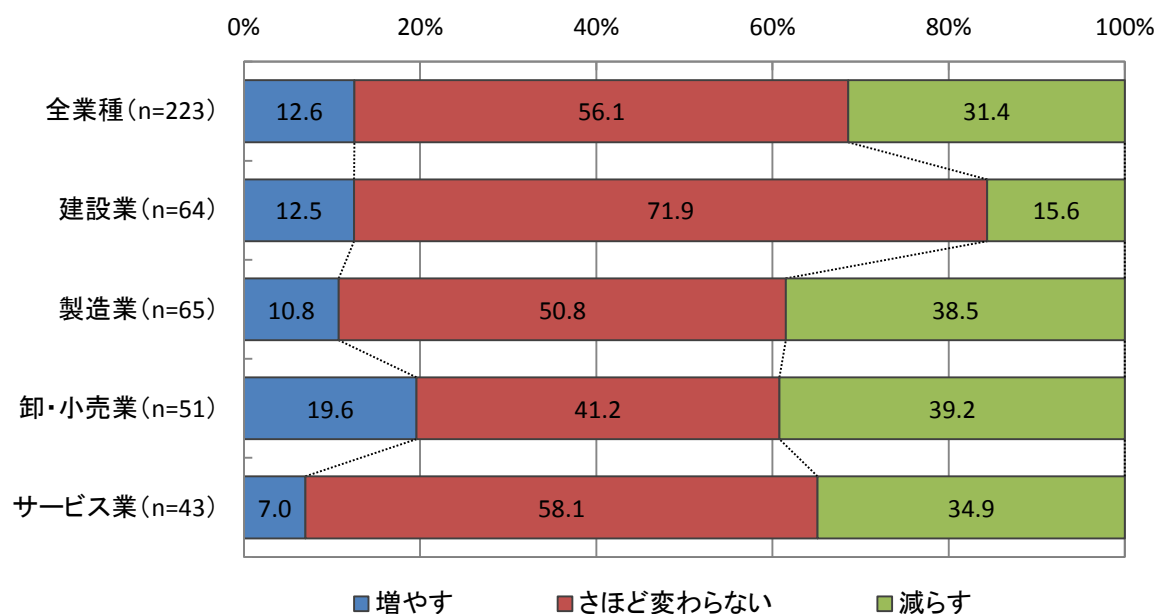
業種別にみると、「支給する」と回答した企業の割合は、建設業が 68.1%（前年比 4.1 ポイント上昇）、製造業が 57.0%（前年比 2.6 ポイント低下）、卸・小売業が 51.5%（前年比 4.2 ポイント低下）、サービス業が 47.8%（前年比 12.4 ポイント低下）と、製造業、卸・小売業、サービス業で低下となった。

図表 25 業種別「冬季ボーナス支給動向」の推移



また、今季「支給する」と回答した企業に対し、前年冬季と比べて支給額を増やすかどうか尋ねたところ、全業種でみると「さほど変わらない」と回答した企業の割合が最も高く、56.1%であった。業種別にみると、建設業で「減らす」の割合が他業種に比べて低くなっている。

図表 26 業種別 「冬季ボーナスを“支給する”企業の方針」



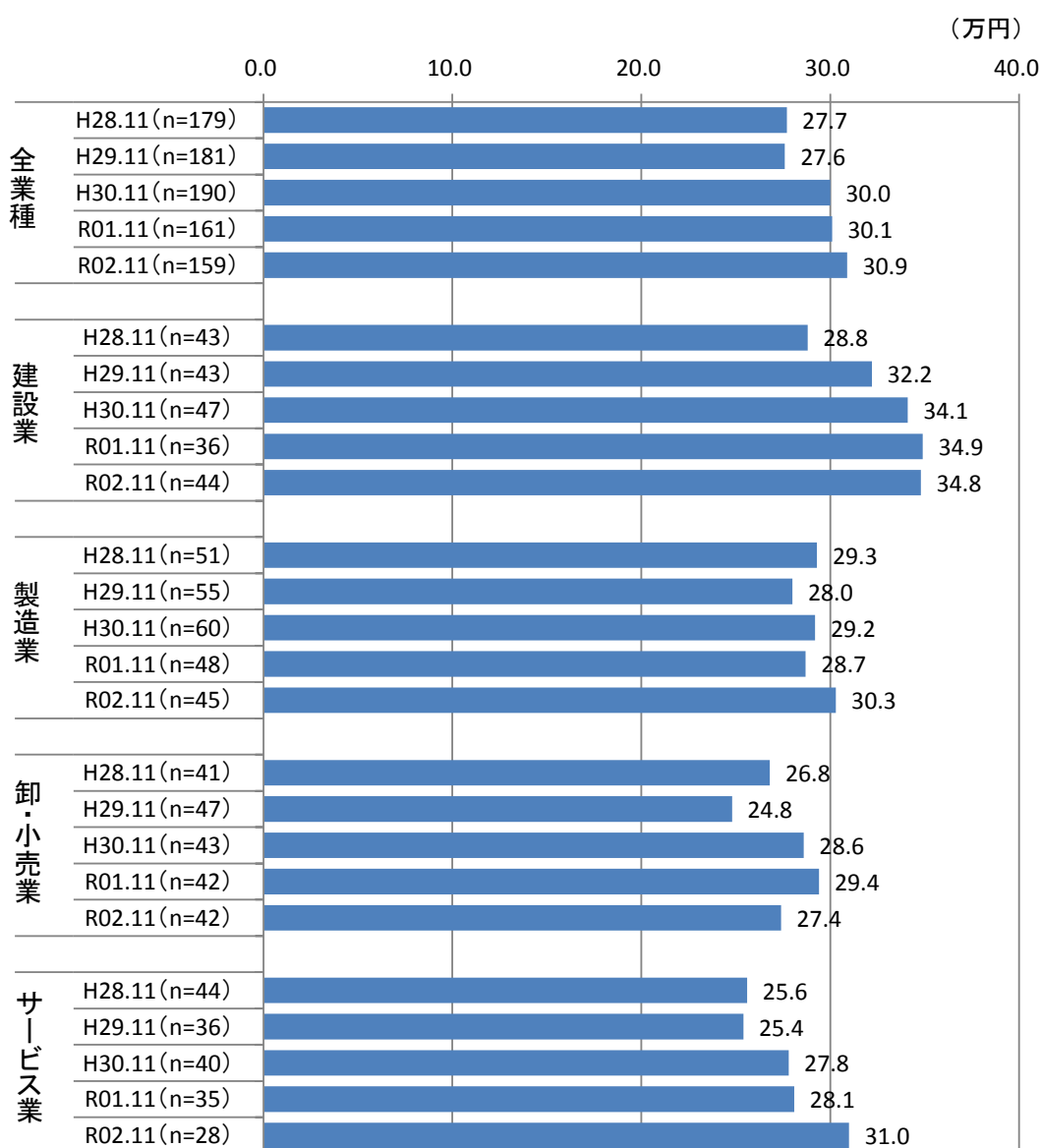
(2) 支給予定額

冬季ボーナスの支給予定額については、全業種平均で 30.9 万円となり、前年に比べ 0.8 万円の増加となった。業種別にみると、前年に比べ、製造業とサービス業で増加し、建設業と卸・小売業で減少した。平均支給予定額が最も高いのは建設業で 34.8 万円となり、最も低いのは卸・小売業で 27.4 万円であった。

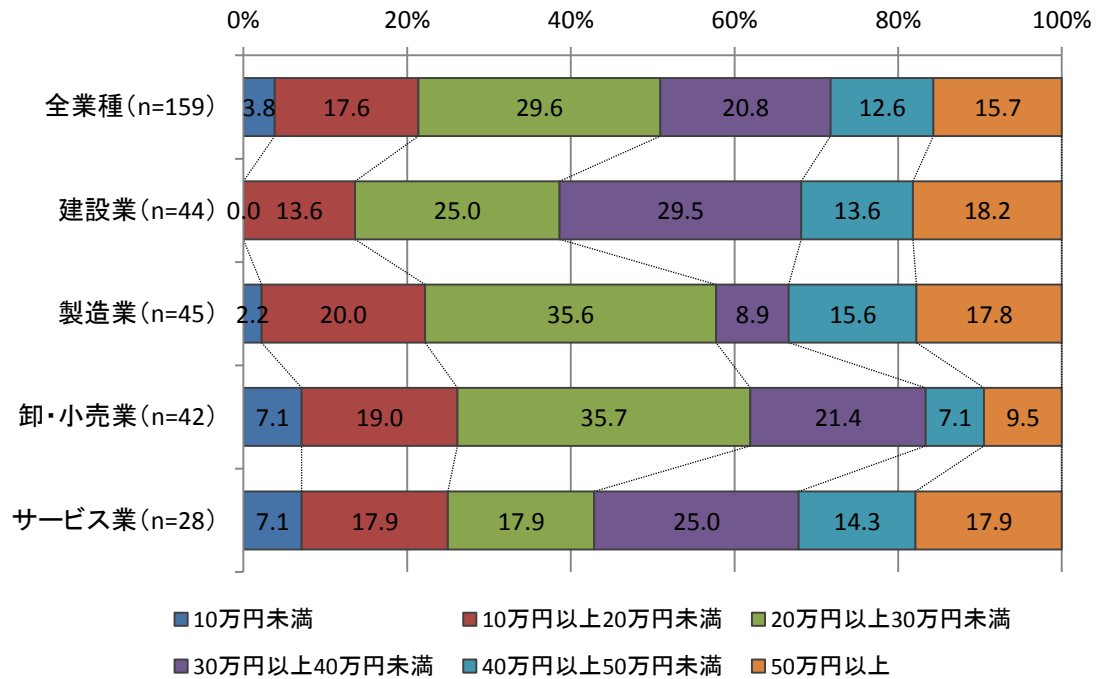
平均支給予定額は、全業種で「20 万円以上 30 万円未満」の割合が最も高く、29.6%となっている。(図表 28)

平均支給予定月数は、全業種で「1.0 カ月以上 1.5 カ月未満」の割合が最も高く、38.9%となっている。業種別にみると、製造業では、3.0 カ月以上を支給する企業が 0.0%という結果となった。(図表 29)

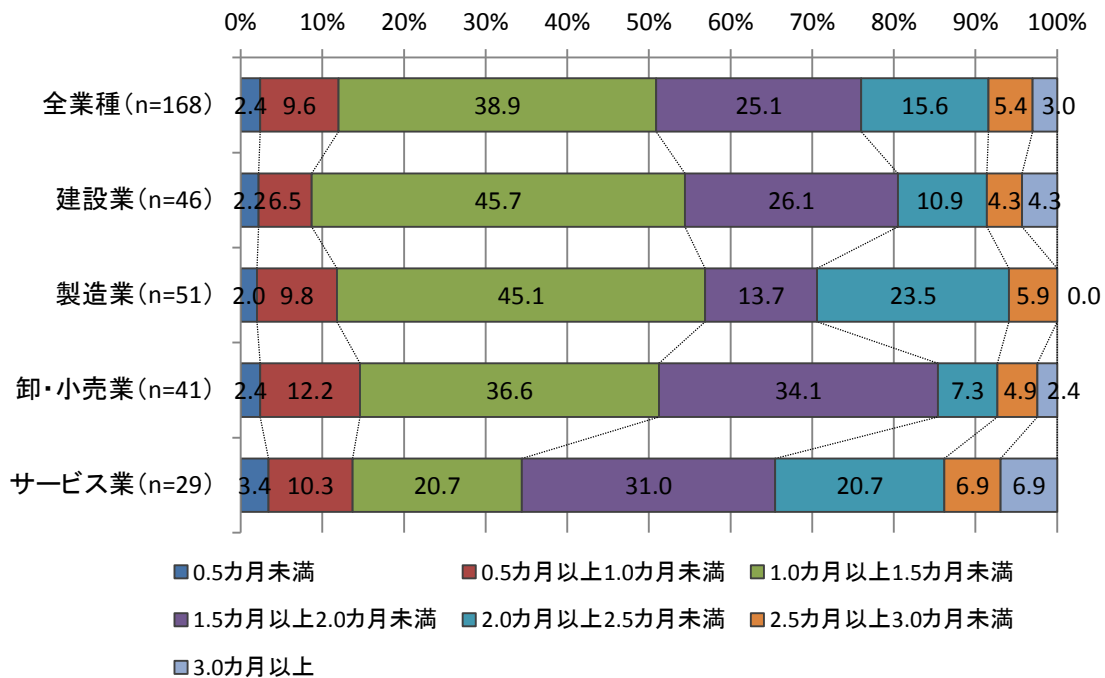
図表 27 業種別「冬季ボーナスの平均支給予定額」の推移



図表 28 業種別「冬季ボーナス平均支給予定額」



図表 29 業種別「冬季ボーナス平均支給予定月数」



<参考資料Ⅰ：地域別・業種別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	21	35	45	55	156
村山北部	20	34	17	17	88
最 上	21	18	10	18	67
置 賜	23	28	25	13	89
庄内田川	29	37	29	28	123
庄内飽海	34	33	31	37	135
合 計	148	185	157	168	658

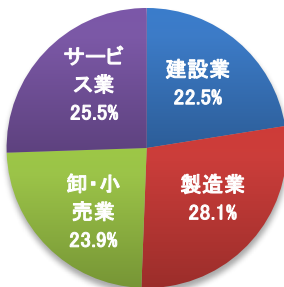
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	18	24	32	39	113
村山北部	10	18	13	8	49
最 上	18	13	8	4	43
置 賜	11	22	14	8	55
庄内田川	19	24	18	13	74
庄内飽海	18	20	16	20	74
合 計	94	121	101	92	408

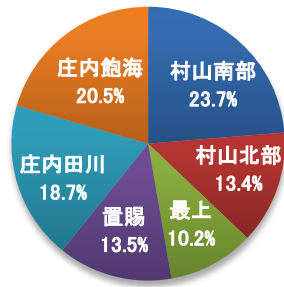
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合 計
村山南部	85.7	68.6	71.1	70.9	72.4
村山北部	50.0	52.9	76.5	47.1	55.7
最 上	85.7	72.2	80.0	22.2	64.2
置 賜	47.8	78.6	56.0	61.5	61.8
庄内田川	65.5	64.9	62.1	46.4	60.2
庄内飽海	52.9	60.6	51.6	54.1	54.8
合 計	63.5	65.4	64.3	54.8	62.0

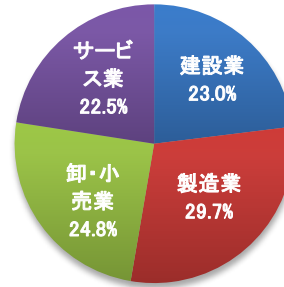
サンプル割合（業種別）



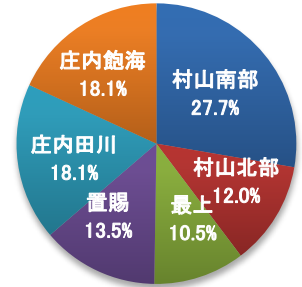
サンプル割合（地域別）



回答社割合（業種別）



回答社割合（地域別）



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査（一部 F A X を利用）

● 調査期間

令和 2 年 11 月 2 日（月）～16 日（月）

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
村山南部	山形市、上山市、山辺町、中山町
村山北部	寒河江市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町
最 上	新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
置 賜	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
庄内田川	鶴岡市、庄内町、三川町
庄内飽海	酒田市、遊佐町

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採用している。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている

項 目	選択肢 (択一方式)
自社の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
業界の業況 (共通項目)	1. 良い 2. さほど変わらない 3. 悪い
売上高 (建設業を除く)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
完成工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
営業利益 (共通項目)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
人員や人手 (共通項目)	1. 足りない 2. ちょうどよい 3. 余っている
資金繰り (共通項目)	1. 楽になった 2. さほど変わらない 3. 厳しい
原材料等の仕入価格 (製造業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
製 (商) 品の仕入価 (卸・小売業のみ)	1. 下がった 2. さほど変わらない 3. 上がった
在庫状況 (製造業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った
手持工事高 (建設業)	1. 増えた 2. さほど変わらない 3. 減った

(注) 各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採用している

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、算出方法は次の通り

例) 自社の業況 D I 値

= (「1. 良い」と回答した企業の割合) - (「3. 悪い」と回答した企業の割合)

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向 (良くなっているか、悪くなっているか) についても分かる

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと) を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ (<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>) にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちら是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ (https://www.fir.co.jp/report/report_y_keiki) 「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア情報総研

リサーチ&コンサルティング事業本部 熊本 均 / 手塚 綾子

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-2 1 荘銀山形ビル 8 F

TEL : 023-626-9017 FAX : 023-626-9038

E-mail : kenkyuu@fir.co.jp URL : <https://www.fir.co.jp/>